

研修名 表現領域研修（造形遊び研修）

平成27年8月31日（月）10:00～16:00

講義 「絵を通してみるこどもの育ち」

演習 「わくわくする造形遊び」

講師 奥村 高明 氏

1 講演要旨

① 講義 「絵を通してみるこどもの育ち」

- ・人は分かることから見る（思い込み）。
一度分かると戻れない（学習効果）。
→子どもと大人の「ずれ」を作る。
- ・子どもにとっての絵とは何か。
 - ・大人の思う絵とは違う。
 - ・動きの中から絵が生まれる。
 - ・大事なものは能力を伸ばし、それを親に伝える。
 - ・次第に大人の思う絵になるので無理はしない。
- ・子どもの絵は正確。
 - ・自分の感じたことをしっかりととらえて描く。
 - ・子どもの絵に「間違い」はない。
 - ・その子がそう描くにはちゃんと理由がある（合理的で、論理的）
- ・子どもの見方
 - ・視線を見る→何を感じ、考えているかわかる。
 - ・手元を見る→道具を効果的に用いたり、思考したりしていることがわかる。
 - ・動き、姿勢を見る→材料、場所などの環境の影響がわかる。
 - ・対話を見る→子どもは学び合いながら学習していることがわかる。⇒その子に身を重ねるように見て、子どもをとらえ、指導を工夫していく。
- ・子どもの絵を上手に読み解く。
 - ・近づく→部分を見る。子どもの描いている距離で見る。
 - ・たどる→順番をたどる。プロセスを再現する。
 - ・考える→作文や題名、対話などを手掛かりに見る。
- ・子どもと上手に語り合う。
 - ・「先生、できた」子どもが絵を持ってきた。→子どもは自分の絵を見ていない。絵を見せた相手を見ている。
 - ・「できたね」→まず、子どもと一緒にできた喜びを共有する。それから作品を見る。

- ・「上手ね」
→全体をほめることは避ける。ポイントは「部分」。
- ・「言う」より「聞く」
→「ここは？」「ふうん」（相槌、オウム返し、具体化する）
- ・感じたことをそのまま言葉にする。
→「楽しいね」「飾ってみたいなあ」「もっと見てみたいなあ」

② 演習「わくわくする造形遊び」

- ・ 絵の具作り
→チョークを網でこすり、粉末にしてのりを入れ、絵の具を作る。
（チョーク…赤、青、黄）
- ・ 帽子作り
→針金、アルミホイルを使って帽子を作る。

2 感想

今回の研修は、子どもが絵を描いている様子、遊んでいる様子、描いた絵を見せて頂いて考える機会が多く、とても分かりやすかったです。また、4名ずつのグループを作っていたので、いろいろな先生方と話すこともできて勉強になりました。演習はとても楽しく、あっという間に時間が過ぎてしまいました。奥村先生が最後に「子どもの絵から分かるのは1割で、もっと深い思いを持っていたり、すごいことを考えている」と言われたのが印象に残りました。子どもが伝えようとしていることを受け止めて認めながら、一緒に絵を描いたり、作ったりすることを楽しんでいきたいと思えます。

（久御山町立佐山保育所 諏訪優子）